

あろま

2011.1.28.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

1月例会 シュートボール(低学年)の授業案づくり

1月22日(土)にあきる野・屋城小で西多摩ブロック1月例会が開催されました。この日は、小平サークルの方も来ていただきました。9人の方が参加され、前回話し合われた低学年のシュートボールの授業の報告を受け、その続きの授業案づくりについて意見を出し合いました。新しいものをつくっていくのだという熱意にあふれた例会になりました。

近況から

書き初めの指導に来ていただき、自分の好きな言葉を選び、書体も選んで書いた。その先生が一人一人の字の特徴に合わせたお手本を書いてくださって、すばらしい作品ができた。(Aさん)

冬休みは読書にはまっていた。前回の例会で紹介されたドラッカーの本はめっちゃくちゃおもしろかった。そして児童の実態を指導案に書く意味を改めて感じた。クラスの子に「3学期の跳び箱はいつやるんですか？」と聞かれた。跳び箱の授業で開脚とびができるようになった子だ。とび箱を楽しみにしているようだった。(Bさん)

日々追われているが、学校評価はほとんど意見が出ない。いつも自分だけが言って、シーンとしている。学校評価の会議は1回で終わった。1年生のシュートボールを始めた。(Cさん)

西多摩ブロック例会には数えるほどしか来ていないが、実践報告を楽しみにしてきた。2011年東京大会の組織部として、西多摩と南部の担当になったので、一人でも多くの参加者を集めようと思っている。(Dさん)

学校評価に校内学力テストのことが書かれていたが、これはいらない。テストは子どもの実態をつかむためのもので、テストをやったら授業をやって子どもの力を伸ばさなくてはならない。日本は文化・科学の基礎基本を教えることを大切にしてきた。OEC Dのような実用的な学力を測るテストに振り回されたりせずに、日本の教育に自信をもてばいい。(Eさん)

今日午前授業があり、生活科でたこ作りをした。保護者にも手伝ってもらって、絵がかけた子は飛ばしに行くようにした。風はあまりなかったが、糸が絡むこともなく高く上がっていた。上げる時間が少なかったので、来週どこかでまたやりたい。(Fさん)

2年生はまとめの時期で、びっくりするような力をつけてきている。短時間で宿題のチェックもこなしている。2月終わりが3月はじめに研究授業がある。フラッグフットボールにつながるボール運びゲームをやりたい。次回の例会にもってくる。(Gさん)

産休の体育軽減の時間講師になった。「自由に教えていいです。」と言われている。みなさんと

共通項ができた。冬大会は、速報の感想の中に「教えていただいてありがとうございました」というような表現があり気になった。研究会はだれもが平等な立場で言い合うべきだ。(Hさん)

新しいボールゲームを創造する(2)

授業報告

ゴール作り

前回の例会で話し合われたことをもとに、ゴールを作ることにしました。90cm幅の布を2枚縫いつけ、高さを140cmにしてゴール用の布をつくりました。それにポケモンの絵を二つ、左右に分けて描きました。園芸の支柱に布を巻きつけ、それに紐をつけ、バスケットボールゴールからS管を使って吊り下げました。

第1回目の授業

練習

「みんなで楽しめるボールゲームをやるよ。」と子どもたちに話し、ゴールを紹介。まずはグループで自由にシュート練習をさせました。バスケットボールのゴール前にポートボール用の半円が描いてあるので、その外側から投げるようにしました。どの子も「当たった!」と歓声を上げながら楽しんでやっていました。ゴールが大きいということが最大のポイントです。

ゲーム

まず2つのグループをコートに入れ、ゲームのやり方について説明しました。4人对4人のゲームです。

あいさつ

ジャンプボール

ボールを持ったら5歩ぐらいでシュートするか友だちにパスする。

線から出たら相手ボール

シュートが決まったら、相手ボールでスタート

何歩でもよいことに

ゲームを始めてみると「5歩」ということを意識しすぎて「1・2・3・4・5」と一歩ずつ数えながら前へ歩くという状態でゲームが進みません。「5歩はなし! 何歩でもいいことにします」と言ってゲーム再開。とたんにゲームらしい動きになりました。

その中で、ディフェンスに囲まれて困り、味方にボールを投げたところ、いい場所においてシュートできた...そんな場面もありました。「すごい、パスができて、シュートができた!」と地下さんは意図的に大きく取り上げました。

授業のふり返りで子どもたちから出た言葉は、「シュートできてうれしかった。」「パスをしてもらってうれしかった。」というものでした。全員がシュートをし、4人を除いてシュート成功できたのでした。

授業報告

ゴールの意味が変わる

公開授業のときに、ゴールにシュートする授業をしました。「日本に一つだけ、世界に一つだけのゴールにシュートするんだよ。」と言って始めたのですが、一人のやさしい気持ちの子が、「かわいいポケモン(ゴール)にボールを当てられない。」と言い出してしまいます。そのときもう一人の子が、「モンスターボールでポケモンをゲットするんだよ」と言ってくれたのです。ボールを当てて倒すのではなく、ポケモンにボールをパスしてゲットすると考えたのです。

例会の話し合い

ゴールについて

- ・4人を残してシュート成功している、シュートの楽しさを味わえるということで、ゴールの大きさは適当。
- ・これまでの360度からの的を倒すシュートボールとは、ゴールの意味がちがっている。キーパーを避けてポケモンにパスをするゴール。ネットのゴールではシュートの目標がつかめず、ついキーパーめがけて投げたしまったりするが、ポケモンが描いてあることで目標ができる。
- ・左右にポケモンが描いてあることで、左右の使い分けを意識できる。
- ・「ゴールとは何か」ということについて、文化史からも考えてみるとよい。野木希典が薩摩藩時代にも日露戦争でも旗を奪われたことがその後の生き方に影響を与えている。チームを象徴する大事なもの。大事なものをとられないようにゴールを守る意味を。
- ・このゲームはゴールに特徴があるので、それにふさわしいネーミングをする必要がある。

ゴール前のルールづくり

- ・ゴールエリア(ゴール前の制限区域)にディフェンスは1人入れるようにする。
- ・ゴールキーパーとして発展させていくことも視野に入れて。

ゲーム分析の中からどんな練習課題を取り出すか

- ・授業報告に、「ディフェンスに囲まれて困り、味方にボールを投げたところ、いい場所においてシュートできた」というのがあったように、ボールを持った人にディフェンスもオフェンスも固まってくる「団子状態」から、外側にボールを出す(団子から抜け出し、パスをもらう)そしてシュートの打てる場所に運んでシュート...というのが、ゲームから導かれる練習課題だろう。(外側にパスを出す技術)

ボールを頭上にかまえる...基本のボールの保持姿勢

- ・ボールを下に持つと、視線が下がり味方が見えない。頭上に持てば取られにくい。頭上から両手でも片手でも投げられる。

2時間目以降の授業計画

- ・もう一度「ためしのゲーム」を行い、課題を引き出す。
- ・その課題に基づき、学習を進める。

《1時間の流れ》

練習 ・パス - キャッチの練習
・コンビネーションの練習

ゲーム

まとめの時間 ゲームをふり返り、課題を見つける

・最後の時間に学年合同でまとめの「シュートボール大会」をする。

参加された方の感想から

第1回目のシュートボール(モンスターボールゲーム??)の実践報告をしながら、この授業のおもしろさをますます感じてきました。と同時に責任も感じたり...

でも、とにかく子どもたちは、ゴールから始まり、よく食いついてきます。子どもたちといっしょに楽しみたいと思います。(Cさん)

低学年ではとにかくゲームをやらせて、そのゲームの中から、うまくいかなかった点を練習課題にしていくという流れがよくわかった。

また、ゲームの中でうまくできた動きを、その場でたくさんほめてあげる大切さも知ることができた。

自分のクラスでも参考にしてやっていきたい。(Bさん)

おもしろかったです。1年生がどう気づいて、悩みながら一つのゲームをつくり上げていけるか! 同時に子どもたちに、どんなことを気づかせ、もっと楽しくするために何をさせたいのか!と考えていく教師の楽しみも見えてきました。

やっぱり子どもとともに教師も授業づくり!! 次回の報告がすごく楽しみです。勉強になりました。

磁石人形、これつくってみたいです。(Iさん)

公立の学校の体育の授業を受けもつことになった。みんなと同じ実践ができること、楽しみです。どんな授業になることやら。(Hさん)

ゴールの布の大きさや位置(下につけるのか、下からどれくらい離すのか)にも意味があって、何をねらうかで変わっていくということがよくわかり、勉強になりました。細かいところやその意味についても、よく考えて教材をつくっていけるようにしたいと思います。(Fさん)

順調にワーク成果と課題究明ができています。

みんなで知恵を出し合う研究会になってきている。

(Eさん)

この授業はとてもおもしろくなりそうです。ゴールの意味も今までのシュートボールとは大きくちがっています。ゴールの左右に描かれたポケモンをゲットするためにモンスターボールを投げる(キーパーを避けてポケモンにパスをする)という、キーパーも意識した上でシュートできる。ゴールの意識もちがってくる。

ゲームから課題を見つけて練習する学習の進め方も見通しがたってきた。(Aさん)

西多摩ブロックに本当に久しぶりに参加しました。前回の論議がわかりませんので、聞くことが多い参加になりましたが、久しぶりに、熱心に教材研究していくことに、現場に戻った感覚になり、楽しかったです。時間をかけて話し合うことはいいですね。

- ・球技(ハンドボール、シュートボール)のねらい
- ・子どもの発展(ゲーム様相)など
- ・授業をどう意図的に仕組むか

子どもの様子がたくさん出て、明日からの授業が楽しみになる会でした。

いろいろな意見で学ぶことの大切さを実感しました。若い方々も、奥の深さ、学ぶこと、そして教師のあるべき姿など、いろいろ感じたのではないのでしょうか。(Dさん)

「ゴール」について
ボールを使った運動(スポーツ)で「ゴール」がとても重要なものだと思改めて思った。

子どもがシュートできるように、どこに当てたらいいかわかるように(意識化)工夫することが大切だと思った。大きさも考え、子どもにとって魅力的なものにする必要があると思った。

ゲームから課題を見つけること
低学年では特にゲームを中心に授業をし、楽しくできるようにしてあげることが大事だと思った。

ゲームから課題を見つけられる目を、こちらがもって、課題を引き出せるようにしたい。(Gさん)

西多摩ブロック 2月例会のご案内!

日時: 2月5日(土) 午後1時～ 場所: あきる野市立屋城小学校

TEL: 042-558 1129 (渡辺)

シュートボール(低学年)の実践報告

& 低学年・ボール運動指導案づくり

1年生とつくるシュートボール(仮名)の実践。

2枚のシーツで大きなゴールを作り、みんなにシュートの楽しさを味あわせたい。しかもパスからのシュートにも気づかせたい。ゲームから課題を見つけて、練習。そしてゲームで試す。楽しみな実践報告です。

そして、さらに一本! 授業発表に向けて2年生のボール運動の指導案づくりです。

それぞれの実践も持ち寄り、ボール運動の学力を確かめ、深め合いましょう。春の学習会に向けての計画づくりもあります。お待ちしております。